

四條畷市福祉計画検討委員会議事録（R4.3.24）

（事務局説明）

高齢福祉課の濱田と申します。それではお手元の資料の「なわて高齢者プラン2021」に基づく令和3年度主要な事業進捗状況報告書に基づき、説明します。施策の展開にあります自立支援、介護予防・重度化防止の推進（4）生きがい・交流事業の充実、④交流やふれあいの場・機会づくりでございます。老人福祉センター「楠風荘」については、更なる高齢化が進展する中で、利用者が日々の生きがいづくりや団体での会合等、ふれあいのオアシスの場・生涯学習の場として利用してもらえるよう、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら自主事業を充実させました。

また、9月に市民総合センター市民ホールにて、敬老会を予定しておりましたが、昨年度と同様に新型コロナウイルスの感染拡大状況や国などの指針等を踏まえ中止しました。

③地域支え合い体制づくり事業の推進でございます。「街かどデイハウスさんら」については、いきがいづくりや閉じこもり予防のためゲーム等や行事ごとにイベントを実施しています。

今年度は4月から6月、8月から9月、1月から3月現在まで新型コロナウイルス感染拡大の影響のために休止とありますが、本日3月24日から再開しています。しかしながら長期で休止していたため、利用者を増やすことはできませんでしたが、自宅でできる体操のチラシを配布したり、健康チェック表を配布して自宅にいても元気にすごせるように取り組みしました。

「ふれあい元気クラブ・えんじょい」については、平日の午前10時から午後4時の間で午前と午後に分け、囲碁・将棋をはじめとした娯楽や書道教室、健康体操、歌体操などを実施しました。昨年度同様に新型コロナウイルス感染拡大防止対策に努めながら、できる講座等の実施をしました。

四條畷市域生活支援サービス協議体（市内各医療・介護事業者、社会福祉協議会、老人クラブ、民生委員児童委員、福祉委員等がくすのき広域連合から委嘱）の市民啓発・居場所づくりワーキンググループが主となり、コロナ禍における高齢者のデジタル格差の解消を目的として「初歩からのスマホ講座」を開催しました。

続きまして、（3）介護予防・日常生活支援総合事業の見直しに伴うサービス提供体制の充実、①生活支援体制の整備の今年度の取組ですが、第2層コーディネーターと連携し、目標としていた第2層協議体が、今までに2箇所立ち上がり、住民が主体的に地域課題を把握や解決を試みる体制づくりに支援をしました。

また、大阪府の委託を受けた認定NPO法人サービスグラントに登録のある専門知識や特技を持ったプロボノワーカーと地域団体のマッチングを推進する「地域の担い手マッチングプログラム」を活用しながら、地域団体向け説明会やボランティアや地域活動に興味のある住民向け担い手説明会を開催し、関心のある方の地域活動への参加を促進することで地域団体の活性化及び地域のニーズと繋がるための支援を実施しました。

次に、②地域づくりの展開の今年度の取組みですが、生活支援サービス協議体の移動外出支援WGにおいて、地域課題の解決に向け移動支援の運用を民間団体や地域が独自で実施しており、四條畷市内インフォーマルな移動手段をまとめた冊子を作成し、今後それらの情報共有を発信し移動支援の在り方を考えていきます。また、居場所づくりWGにおいては、高齢者のデジタル格差の解消を目的として「初歩からのスマホ講座」を開催しました。

また、移動外出支援WGでは、コロナ過で高齢者の閉じこもりからのフレイルに陥り、虚弱になっていく高齢者への支援として、外出先移動において途中休憩する椅子があれば外出する機会が

増えるのではとの意見から、ここイスプロジェクトとして市内の高齢者施設とありますが、るうてるホーム、四條畷荘、四條畷市社会福祉協議会 3 か所に椅子を設置しました。次のページをご覧ください。

次に、ウ 情報提供に向けた環境整備の今年度の取組ですが、くすのき広域連合において見える化システムにおいて、地域資源として通いの場等の情報などを地域資源情報サイト「Ayamu」に掲載することにより、介護保険の自立支援に向けた総合事業の更なる周知を図りました。

3 地域包括ケアシステムの深化・推進（１）地域包括支援センターとの連携の今年度の取組ですが、引き続き市の広報にて毎月地域包括支援センターだよりを掲載し、活動の紹介や教室の案内を通して市民への啓発を図っています。専門職のネットワークについては、在宅医療介護連携推進協議会や認知症初期集中支援推進事業検討会議、自立支援型地域ケア会議等を活用し、高齢者の支援の課題解決に取り組みました。また圏域地域ケア会議等を活用して、地域の見守り体制の構築や地域課題の共有に取り組みました。

続きまして、（２）地域包括ケアシステムの基盤となるネットワークの整備・充実、①地域ケア会議の推進でございます。今年度の取組みですが、次のページをご覧ください。令和元年 11 月より市内で短期集中通所サービス C の事業所が立ち上がり、短期間で生活機能を改善し、元の生活に戻れるように支援を展開しています。これにより、これまでの自立支援型地域ケア会議に加え、毎月 C 型カンファレンスを行うことで、より具体的な目標に向けたサービス提供とその評価を多職種の視点で検討していきます。

続きまして、②医療と介護の連携強化ですが、次のページをご覧ください。今年度の取組みですが、各 WG との連携をはかり地域包括ケアシステムの体制整備をさらに進めていきます。

今年度は、4 つの場面のうち、入退院連携及び急変時並びに在宅見取りについて専門職に対し、市民に広く周知啓発できるよう研修会や草の根活動の出前講座を実施しました。また、新型コロナウイルス感染症により、自粛を余儀なくされたことで、高齢者等の ADL が低下し介護予防が重要なことから、フレイル予防の出前講座にも取り組みました。市のホームページにて入退院連携シート、ACP（アドバンス ケア プランニング）の見直し、私の想いシートと改め作成し介護支援専門員などの専門職に活用してもらい市民が ACP に触れる機会を設け、市民の願いが叶うまちへと情報発信を図っていきます。専門職向けの相談窓口の周知も併せて行うなど医療と介護の連携を図る体制づくりを推進していきます。

（３）高齢者セーフティネットの整備・充実、①見守りサービスへの支援、イの高齢者の見守りネットワーク事業の充実でございます。高齢者が住みなれた地域で安心して暮らし続けることができる地域づくりの更なる見守りの実現をめざし、令和 3 年 11 月に大阪東部農業協同組合と協定を結び、関係機関との連携に加え、民間事業者の協力を得ながら見守り体制の強化を図りました。

続きまして、ウの緊急連絡カード配布事業でございます。昨年度配布予定でしたが、民生委員在宅高齢者調査に合わせて今年度実施しました。

今年度の在宅高齢者実態調査に合わせ、広く追加配付を行ってもらうため、65 歳以上の独居及び 70 歳以上夫婦世帯を対象とした住民基本台帳のデータを貸与するとともに、民生委員・児童委員協議会定例会において配付説明を行い、必要に応じてキットを配付しました。その後、2 件の救急活動において、緊急連絡カードを活用して適切な支援につなげることができました。

また、民生委員・児童委員や個人情報保護審査会との調整により、委員が収集した情報を市にも情報を提供いただくこととなり、緊急時に対応できるようになりました。次のページをご覧ください。

最後になりますが、4 認知症高齢者への総合的支援、（１）認知症に関する意識啓発の促進の今

年度の取組みですが、引き続き市の出前講座及び地域包括支援センターのネットワークを通じて病院や企業、市民に広く講座開催の呼びかけを行うとともに、認知症サポーターが地域の活動につながるようステップアップ講座を開催しました。また認知症カフェ等の市内の拠点に働きかけ、地域住民の認知症理解の啓発にも努めました。地域住民の認知症理解の啓発の具体的な内容としましては、認知症に対する早期発見・早期対応の重要性を説明してく草の根活動を医療機関や薬局、また高齢者が立ち寄ることのあるスーパーや商店街等へ積極的に活動しました。

以上で説明を終わります。

（小寺会長）

事務局からの説明は以上となりますが、皆さんご質問等ございませんでしょうか。

（守屋委員）

要望になりますが、新型コロナウイルスのまん延により様々なイベント等が中止となっておりますが、今年度あたりボッチャ大会など障がい者から高齢者まで楽しめるようなイベントを開催してほしいです。

（阪本次長）

貴重なご意見ありがとうございます。次年度から高齢福祉課で健康寿命の延伸をすることになりましたので、健康寿命の延伸の観点からいろいろな方が参加できるイベント実施を考えていきます。